

ほうこん

題字・清水英夫

GALAC・9月号・付録
2015年9月6日発行(毎月1回6日発行)
昭和43年3月8日第三種郵便物許可
〒160-0022
東京都新宿区新宿5-10-14 中村ビル2F
NPO法人放送批評懇談会
TEL(03)5379-5521/FAX(03)5379-5510
ホームページ <http://www.houkon.jp/>
Eメール kondankai@houkon.jp
編集・藤田真文

放送懇セミナー 9月11日開催決定

―7月理事会報告―

2015年7月29日、7月理事会を開催した。

1. 委員会活動報告

◇出版事業委員会 飯田委員長

・7月16日に編集会議を開催した。9月号は「HOT TOPIC」で急遽、報道圧力に対するキャスターの発言をまとめた。10月号の特集は「スポーツジャーナリズムとテレビ」、11月号は「戦後70年」の予定。

◇選奨事業委員会

〈テレビ委員会〉 丹羽委員長

・6月30日に6月度の月評会を開催してNHKスペシャル「沖縄戦全記録」、NHKスペシャル「戦後70年 ニッポンの肖像「豊かさ」を求めて①②」「世界の中で①②③」、報道ステーション 特集「沖縄」慰霊の日」を考える『日米地

位協定』(テレビ朝日)テレメン

タリー2015「DNA鑑定の闇」(テレビ朝日)の4本を選出した。

〈捜査機関の独占の危険性〉

・今年度から新たに設けた賞の名称は「フロンティア賞」とし、特別賞と同様に応募作からだけでなく選出する。

〈ラジオ委員会〉 橋本委員長

・7月21日に定例会を開催した。新潟放送の「近藤丈晴の独占!ごきげんアワー」を聴取した。

・戦後70年に関連した番組の制作

状況をラジオ委員会でも調査して、委員で手分けして聴取し、

『GALAC』の11月号と12月号のラジオ委員会のページを使って番組名と評等を掲載する予定。

・「入賞作品を聴いて、語る会」をTBSセミナー室で7月26日に

開催した。参加人数は一般が51人、学生が15人で盛況だったが、収支としてはゲストの交通費と宿泊費で赤字になった。9月27日(日)毎日放送で開催予定の「入賞作品を聴いて、語る会」の成功を目指したい。

〈CM委員会〉 稗田委員長

・7月22日に定例会を開催して約25本の気になるCMについて話し合った。

〈報道活動委員会〉 鈴木委員長

・今年度の「制作者と語る会」はNHK放送博物館を予定していたが、放送博物館側の都合で、リニューアル後の開催が不可能になったので、専修大学神田キャンパスの教室で11月の開催を目指して調整中。

◇第52回ギャラクシー賞贈賞式懇

親会決算報告 中島事務局長

・決算額は昨年とほぼ同額だった。司会者の交通費と宿泊費、打ち合わせの交通費などが若干増えた。

◇企画事業委員会 桜井副委員長

・7月21日に委員会を開催した。9月11日開催のセミナーの案内を過去のシンポジウム参加者約

900人、ギャラクシー賞参加者約120人にメールで通知した。理事の皆さんに知り合いの方への通知をお願いしたい。

◇マイベストTV賞プロジェクト
滝野プロジェクトリーダー

・7月14日にプロジェクト会議を開催した。運営サイト刷新について話し合ったが、クレジットカード払いやポイント制を導入するなどの案が出た。システム会社に見積りを依頼して、年内には形にしたい。

2. その他

①ギャラクシー賞贈賞式会場について 藤田専務理事

・第53回ギャラクシー賞贈賞式についてウエスティンホテルと日程を確認したところ、放懇側の希望の日は既に別の宴会が予約済みとの回答があった。日程については早い段階から希望を伝えていたが、昨年営業マンが変わって引き継ぎされないままだったようだ。結局5月30日しか空いていないとの回答があり、急遽ほかのホテルを探したところ、セルリアンタワー東急ホテルと条件が折り合った。予算も当初提示してきた金額から、希望に近いものになったが、

本日理事会としてどちらのホテルにするか決定してもらいたい。

これについて討議した結果、セルリアンタワー東急ホテルに決定。

②正会員入退会
入会

節丸雅茅さん、縫宗さん、
山際滯さん
退会

小池清さん

③ザ・ベストテレビ2015

NHK「ザ・ベストテレビ2015」への協力を了承。

④アプリ「WATCHA」の件

アプリ「WATCHA」(韓国)への協力を了承。

◆次回以降の理事会

8月 休会

9月 9月28日(月)

10月 10月21日(水)

【出席】音好宏、橋本隆、藤田真文、飯田みか、丹羽美之、藤久ミネ、稗田政憲、鈴木嘉一、滝野俊一、碓井広義、茅原良平、小林毅、坂本衛、桜井聖子、嶋田親一、古川柳子、山田健太、中島好登

会議記録

「7月」……………

14日 マイベストTV賞

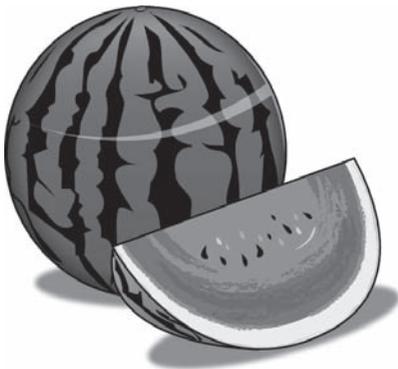
16日 出版編集委員会

21日 (選奨)ラジオ定例部会

22日 (選奨)CM定例部会

29日 (選奨)テレビ月評会

31日 (選奨)テレビ月評会



ラジオ番組・テレビドラマの制作をしています

奈美木 映里

国立大学国文学教授の父と純文学作家の母(草部和子・近代文学賞／放送文学賞／文化庁脚本賞受賞)の長女として生まれる。大学時代より糸居五郎の門下生としてDJ—BEBEの名で全国AM局で活躍。1983年DJ事務所(株)サンデイを設立。その姿を追ったドキュメンタリーがテレビ各局で取上げられ、NHK銀河テレビ小説「新宿物語」(1985年)／漫画「3D BOYS」(1996年)のモデルとなる。現在は、ラジオ番組・テレビドラマの制作を行っている。

また会社経営をする傍ら、1997年よりラジオドラマの制作／脚本を手掛け、最近では毎週TOKYO MXのテレビドラマ「えにし」の記憶」の脚本も手掛けている。



新 入 正 会 員 自 己 紹 介

中国の放送メディアを研究しています

沈 霄 虹

中国の上海出身の沈霄虹チンシャウコウと申します。2008年、松蔭大学異文化コミュニケーション学を卒業し、09年4月に上智大学文学研究科新聞学専攻博士課程に入学し、現在同所属の博士後期課程に在籍しています。

研究分野は中国の放送メディアで、現在は博士論文を執筆中です。10年修士卒業後、「東日本大震災に関する内外メディアの報道検証および東アジアにおけるマスメディアの規範理論構築の研究」という共同研究に参加しました。そのほかに、「台湾メディアの3・11震災報道」『聯合報』の内容分析を中心に(13)、「中国の情報化社会に関する考察—インターネットの展開を中心に」(14)、「中国のニューメディアに関する考察」(15)の3つの論文を執筆し、上智大学新聞学科紀要『コミュニケーション研究』に掲載されました。

今後中国のマスメディアのみならず、発展途上国特に東アジア諸国のマスメディアの発展状況の研究に進んでいきたいと考えています。

新 入 正 会 員 自 己 紹 介

ジャーナリストを目指しています

莫 倩 如

ご承認ありがとうございます。私は中国広西チワン族自治区出身の莫倩如モチンロと申します。故郷は山の中の「南丹」という小さい町です。この町は桂林のような大都市ほど有名ではありませんが、ここでの山や水などの景色は桂林に絶対負けません。

子どもの頃から「ジャーナリストになりたい」という夢をずっと抱き、学部時代に中国伝媒大学に入り、中国新聞社(通信社)の広西分社と中国中央テレビ局(CCTV)のニュースセンターで数か月のインターンをしました。

現在は上智大学文学研究科新聞学専攻の博士前期2年に在籍しており、テレビニュースに関する研究を行っています。日本のテレビ報道のことを深く理解したいので、放送批評懇談会に参加いたしました。来年卒業後はテレビ局に入り、一人のジャーナリストとして中日の交流に貢献したいと思います。その時、放送批評懇談会での経験も私の仕事に役立てると思っております。

放送批評懇談会セミナー2015

ラジオの可能性を 真剣に考える すべてを語る150分

受講者募集中

開催趣旨

ラジオ界はいま、SIU低迷、タイム提供の脱落傾向、大手クライアントのラジオ離れ、ラジオショッピング供給過剰による負のスパイラルなど、溜息が出る現実は否定できません。しかし一方、V-Lowマルチメディア放送の商用化、AM都市難聴解消策、ラジコプレミアムなど反転攻勢も始まっています。独自ビジョンでFM補完放送に取り組む南海放送の田中和彦社長。地方局で唯一ホールディングス化して3期連続増収を達成したCBCラジオの升家誠司社長。ラジオ界を牽引するパーソンを迎え、ラジオの可能性を徹底論議します。南海放送、CBCとも兼営社で、お二人は制作出身。ラジオの活性化に留まらず、テレビの近未来やコンテンツを考えるヒントもぎっしりつまった講演が期待されます。

プログラム

南海放送 CBCラジオ
田中和彦 × 升家誠司

14:00~15:10

【今、攻めに出るビジョン、戦略、コンテンツ】

- ・エリア全域FM補完放送でAM改革を目指す。
 - ・今治タオル復興が示唆するラジオ活性化への道。
 - ・メーカー型ビジネスモデルで増収。
 - ・若者向け番組を夜帯に、その戦略は？
- ほか

15:10~15:25

【休憩・自由時間】

15:25~16:30

【真剣、本音ディスカッション】

会場から質問、登壇者との質疑応答

日時：2015年9月11日(金) 14:00~16:30

会場：明治記念館 東京都港区元赤坂

■受講料 放送批評懇談会正会員(個人) 3,000円
維持会員(法人) 5,000円
一般 8,000円

■申込先 放送批評懇談会ホームページ <http://www.houkon.jp>
ファクス、郵送でのお申込をご希望の方は、資料をご請求ください
Tel.03-5379-5521 Fax.03-5379-5510 kondankai@houkon.jp

■申込締切 9月4日(金曜日) 定員100名、先着順受付。定員になり次第、締め切らせていただきます。

